

阿南市科学センター 7月の星空案内

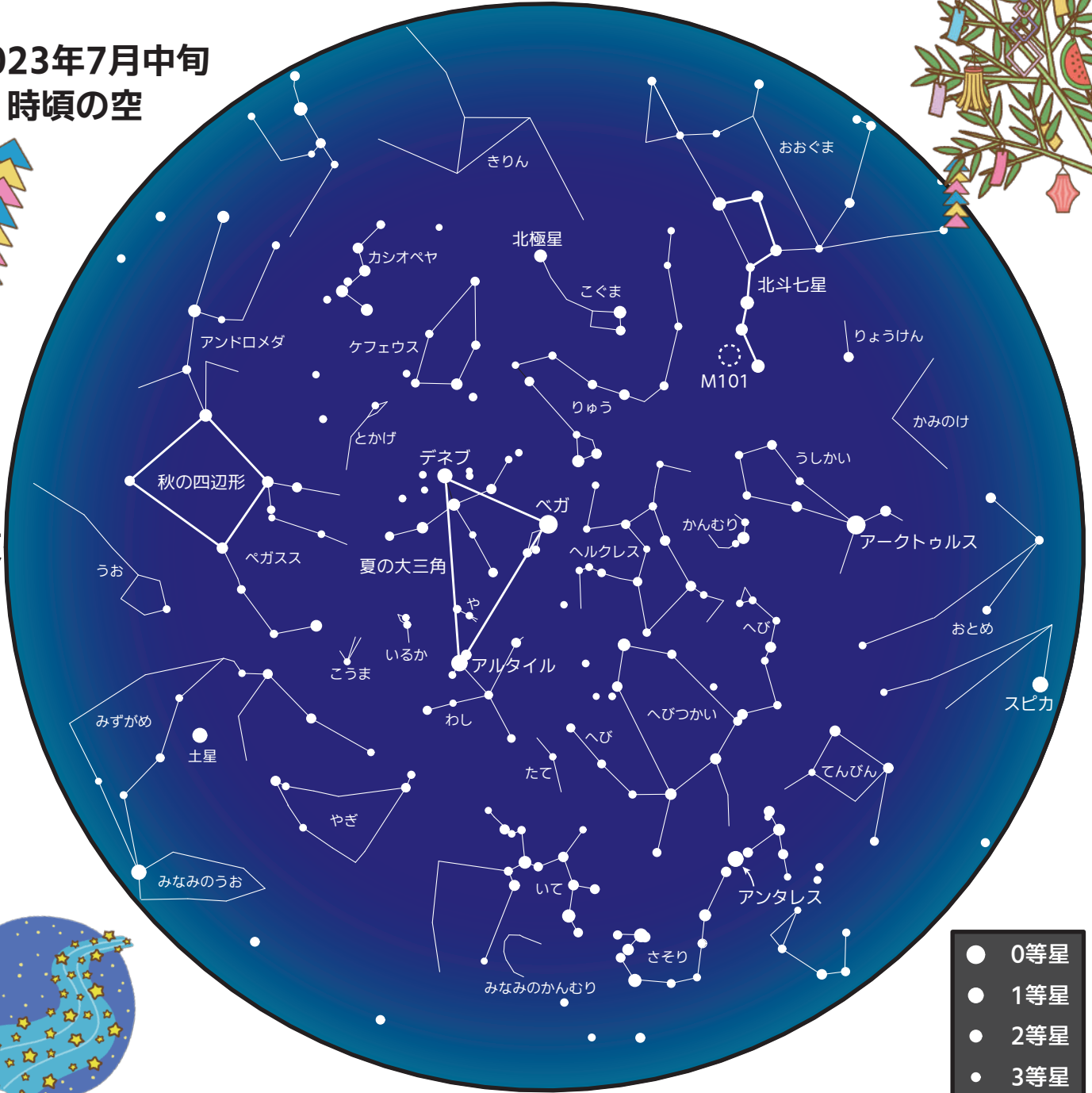
北

2023年7月中旬
21時頃の空

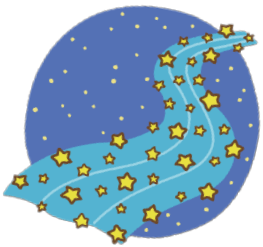


東

西



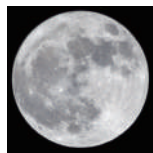
南



7月の星空というと七夕の星は欠かせません。七夕の星を探すには、**夏の大三角**から探してみましよう。夏の大三角は、頭の真上近くに見える明るい星を3つつないだ三角形で、小学校で使う三角定規のような形にも見えます。最も明るい星が**ベガ**(約**0.0**等)で織姫星としても知られています。次に明るい星が**アルタイル**(約**0.2**等)で彦星にあたります。そして夏の大三角のなかで最も暗い星が**デネブ**(約**1.2**等)です。デネブは七夕の物語に関係ないのだろうかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。本によっては、織姫と彦星が天の川を渡って会うときに橋となってくれた**カササギ**という鳥だとする説もあります。月明かりのない日に、街明かりが少ないところで夏の大三角を見てみると、ちょうど織姫星と彦星の間にぼんやりとした淡い**天の川**が流れているのも見えます。七夕の頃というはまだ梅雨時期ですが、ぜひ夏の大三角、そして七夕の星も探してみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 7月の月の満ち欠けと惑星について



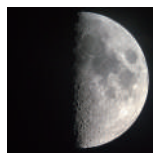
満月
3日



下弦
10日



新月
18日



上弦
26日

7月の天体観望会で月が見える日時は？



7/1(土) 全ての回で観察可能



7/29(土) 全ての回で観察可能

※両日も19時の回は空が明るいので、20時・21時の回がおすすめ

水星：下旬ごろより、日没後、西のごく低空に見える。【約0.0等】

金星：日没後、西の空やや低くに見える。【約-4.5等】

火星：日没後、西の空やや低くに見える。【約1.8等】

木星：未明に東の空から昇り、日の出前まで見える。【約-2.3等】

土星：夜遅くに東の空から昇り、日の出前まで見える。【約0.7等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬ごろの明るさ。

7月7日には
金星が最大光度をむかえ
とても明るく見えるよ！



■ 天文の話題

★M101にて超新星 SN 2023ixf が発見！

2023年5月20日、板垣公一さんによって、おおぐま座の渦巻銀河 M101(回転花火銀河)にて超新星 SN 2023ixf が発見されました。超新星は大きくI型とII型に分類されますが、後の観測によって、この超新星はII型であり、質量の大きな星がその一生を終える時の大きな爆発によるものであると明らかになりました。

科学センターの113cm望遠鏡でもSN 2023ixfの姿をとらえることができました。右手の写真矢印の先に、青白く光る超新星の姿が写っています。Latest Supernovaeに寄せられた観測データによると、5月21日撮影時の明るさは約11等代後半でした。さてこの超新星ですが、写真だけではなく、望遠鏡による眼視でも見ることができるのです。M101は113cm望遠鏡で見てもとても淡い天体なのですが、よく目を凝らしてみると超新星が明るい点状に見えます。これからだんだんと暗くなる予報ですので、月明かりのない日を狙い、お早めにご覧ください。

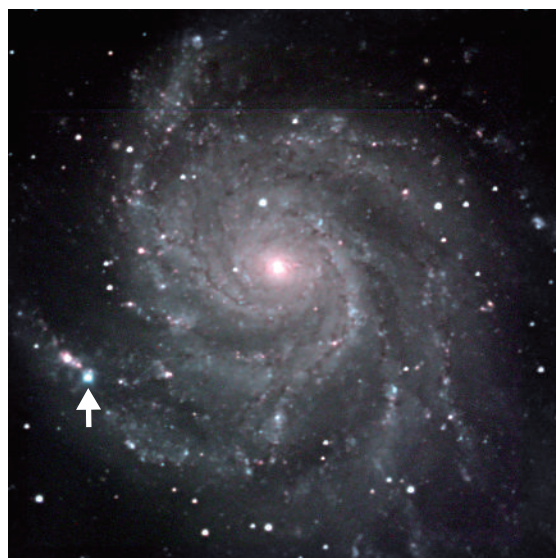


写真1. 5月21日に撮影したM101と超新SN 2023ixf(撮影 A.Suzuki)

★20日 夕空に天体が集合！

7月20日の日没後は西の空に注目してみましょう。月、火星、金星、水星の4天体が集まっている姿が見られます。まず1番最初に目につくのは金星でしょう。7日に最大光度をむかえ、ひと際明るく輝いています。金星の少し左上を見てみると三日月が見えています。再び金星に戻り、今度は左上を見てみると赤く輝く火星が見えます。火星は今の時期、地球から遠く暗いため、双眼鏡があった方が探しやすいでしょう。そして水星は最も難関です。金星よりもさらに空の低いところに見えるため、西の空がひらけている所で観察をするのがおすすめです。ぜひ月火水金のコンプリートを目指し、観察してみてください。

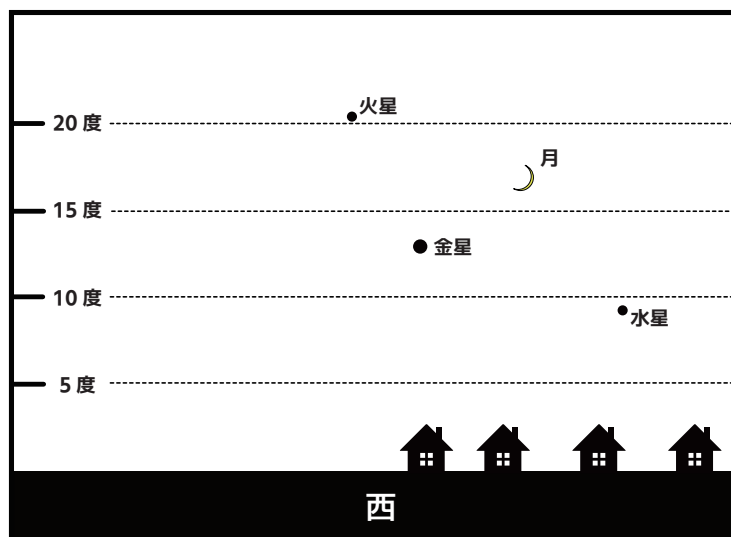


図. 7月20日19時半ごろの西の空